

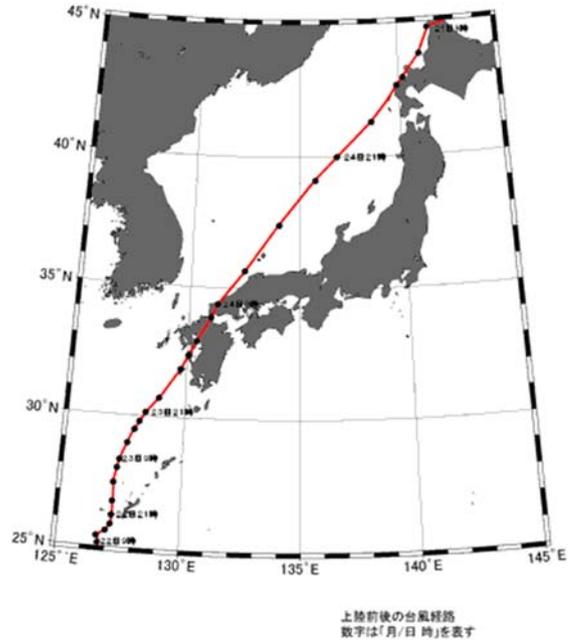
平成11年台風18号

平成11(1999)年9月23日～24日

■気象の概況

1999年9月19日午前9時に沖縄県・宮古島の南東約420キロの海上で発生した台風18号は21日午後9時頃から次第に勢力を強めながら、ゆっくりとした速さで沖縄の南海上を北上しました。22日午後9時頃には那覇市の西南西約50キロの海上で「大型で非常に強い」台風となりました。23日午後9時頃から速度を時速25キロとやや早め、九州の南海上を北上し24日午前6時頃、熊本県北部に上陸しました。その後、九州北部を速度45キロ4で北東に進み、24日午前9時に山口県宇部市付近に再上陸しました。上陸後も勢力は衰えず、午前10時頃島根県益田市付近を通過して日本海に入り、速度を時速60キロと早めて日本海を北北東へ進みました。

台風18号が広島県に再接近した9月24日午前9時47分頃、最大瞬間風速が南南東49.6キロとなる非常に強い風を記録しました。これは、平成3年台風19号に次ぐ記録となりました。高潮は台風の接近が満潮の時刻とややずれましたが、当日は大潮と重なり、広島港では24午前10時25分に最高潮位2.87(TP=東京湾平均海面)を記録し、最大潮位偏差は既往最高の1.83メートルとなり記録上の最高を更新しました。(高潮・津波災害ポータルひろしまから)



「高潮・津波災害ポータルひろしま」から

■被害の状況

この年の台風18号は大型クレーンの倒壊や空港の冠水など沿岸部の都市に特異な被害をもたらしました。高潮による浸水が多かったのも特徴です。広島県内では高潮及び越波による浸水面積が廿日市から坂までの間で549ヘクタールにも及びました。特に広島市の観音地区では139ヘクタール、草津地区では117ヘクタール、出島地区では100ヘクタールに及ぶ面積が被害を受けました。

中国新聞は9月24日付夕刊から「台風18号 中国地方を直撃／広島で瞬間風速49.6メートル」と報じています。広島市中区の三菱重工業広島製作所江波工場では大型クレーンが転倒して3人が死亡する惨事が起きました。工場は冠水して孤立しました。広島県宮島町の厳島神社では国宝の左門客(ひだりかどまろうど)神社が強風と高潮により倒壊しました。この神社は1991年の台風19号でも被害に遭っています。国重要文化財の能舞台の屋根の一部も飛ばされました。

この日だけで全国で25人が亡くなり、うち熊本県で12人、広島県で5人でした。交通も大きく乱れました。



台風18号の被害を伝える中国新聞

トピック

山口宇部空港の機能停止

周防灘に面した山口宇部空港は高潮によって高さ1・2メートル、厚さ1メートルの防波堤が14か所で損壊し、滑走路が冠水しました。滑走路の延長工事が延長部分の造成を終えていましたが、その新設部分も被害を受けました。高潮による空港の被害としては例をみないものでしたが、後に東日本大震災で仙台空港が津波の襲来を受けました。

宇部空港では旅客ターミナルビルや電源局舎など空港施設への浸水が最高1.15メートル近くにもなり、空港の機能は完全に停止しました。国土交通省のレポートによると、空港事務所次長は「暴風雨で視界ゼロという時に高潮に襲われ、気が付いた時にはすでに建物に海水が入ってきていた」と災害時を振り返り、「台風の目の中に入ったのか、雨も風も突然ピタリと止んで視界が開けた時には防波堤の先に見える海面が防波堤より10メートル近くも高くなっていた。波ではなく、海全体が襲ってくるかのようなだった」と語っています。

空港の駐車場も冠水しました。運航に必要な精密機器類が致命的な損傷を免れたため、災害から4日後の28日には有視界飛行での運航が再開されました。この高潮による空港の被害総額は、主要施設だけでもおよそ18億円に上っています。この台風では同じ宇部市の山口大学医学部付属病院にも被害がありました。地下から脱出した救急車は地上に出たところで運転が不能になりました。

気象予報士饒村曜氏のブログによると、この台風は1942（昭和17）年8月の周防灘台風に似ているとのこと。戦時下の気象報道管制下にあったため知られていませんが、歴史に学ぶべき事例でしょう。



台風18号による宇部市内の浸水状況（国土交通省レポートから）